

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	(一社) 黒部・宇奈月温泉観光局	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	黒部市	
所在地	富山県黒部市	
設立時期	昭和55年4月1日「宇奈月温泉観光協会」設立、昭和59年5月1日「黒部市観光協会」設立 平成20年4月1日「黒部・宇奈月温泉観光協会」設立 平成21年4月1日「社団法人黒部・宇奈月温泉観光協会」へ移行 平成23年4月5日「一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局」へ移行	
職員数	14人【内訳：常勤9人（正職員7人、非正規職員2人、出向等0人）、非常勤5人（非正規職員5人）】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）※必ず記入すること	(氏名) 川端康夫 (出身組織名) 川端鐵工(株)代表取締役、黒部商工会議所会頭	(一社) 黒部・宇奈月温泉観光局の代表理事および、市内の企業・団体等を会員とする商工会議所の会頭として、地域の経済をけん引している。また地域の様々なパイプ役となっており、地域の観光振興において方向性を示し成果を挙げている。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材）※必ず記入すること	(氏名) 坂井英次「専従」 (出身組織名) 立山黒部貫光(株)	県内大手旅客輸送会社にて長年勤務し、支配人として複数の宿泊施設の運営にあたる。後年は宇奈月温泉の宿泊施設に勤務し、当地における各種データの収集、分析、活用などについて知見を有している。
旅行商品の造成・販売の責任者（専門人材）	(氏名) 高橋昌美 (出身組織名) 新富観光サービス(株)	県内大手旅行会社にて旅行商品の企画・営業の経験を有し、国内旅行業界の流通事情に詳しい。当法人の第二種旅行業事業の中心的存在として事業をけん引。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	黒部市商工観光課（全般） 富山県観光・交通・地域振興局観光振興室（全般）	
連携する事業者名及び役割	〈観光事業者〉 黒部峡谷鉄道(株)、宇奈月温泉旅館協同組合、黒部観光旅館組合、くろべ漁業協同組合、宇奈月ビール(株)、黒部商工会議所、(株)ホクタテ、黒部市農業協同組合、他 〈交通事業者〉 西日本旅客鉄道(株)、富山地方鉄道(株)、あいの風とやま鉄道(株)、黒部峡谷鉄道(株)、桜井交通(株)、くろべ交通(株)、他	

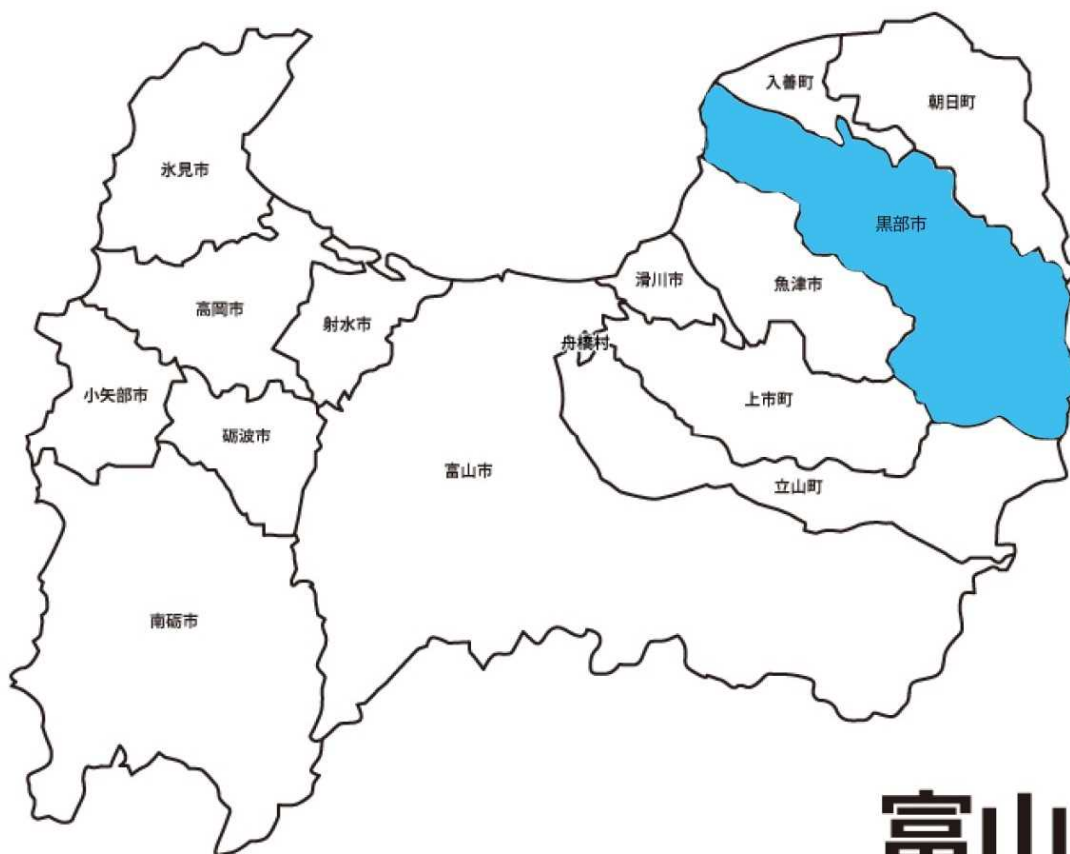
(別添) 様式 1

	<p>〈金融機関〉 (株)北陸銀行宇奈月支店、(株)北陸銀行黒部支店、(株)富山第一銀行黒部支店、(株)富山銀行黒部支店、にいかわ信用金庫、他 〈その他〉 関西電力(株)北陸支社、YKK(株)、北星ゴム工業(株)、他</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件) (概要) 行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の組織の代表者で構成する(一社)黒部・宇奈月温泉観光局は、その意思決定の機関として理事会を開催し、今後も理事会がDMOの意思決定機関となる。また、その代表理事をDMOの意思決定の代表者として設定する。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>地域住民によって組織されているガイド団体向けの研修および情報交換の場を2か月に1度程度に設けている。また、観光案内所を複数運営しているが、観光客だけでなく地元住民との情報交換の場としても活用している。地域住民主催イベントの会場としても積極的に開放している。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要) 黒部市とともに、黒部ならではの魅力ある旅行商品の造成や観光PR事業など、市内の産業・技術・文化・歴史などの資源を活用して広く観光振興を図る活動。 ・観光客の誘致促進のための観光地の宣伝紹介の実施及び支援 ・観光振興のためのイベント等の実施及び支援、等 (定量的な評価) ・H30年度決算 116,148,500円 ・会員数 169 (令和元年6月時点)</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要) (一社)黒部・宇奈月温泉観光局が中心となり、行政、宿泊事業者、飲食事業者のみならず、交通事業者、漁業団体、農業団体、製造業等他産業関係者にも参画してもらえるよう働きかけ、官民が密接に連携した運営を行う。</p> <div data-bbox="582 1261 1289 1937" style="text-align: center;"> </div>

2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

富山県黒部市全地域



富山県

【区域設定の考え方】

(一社)黒部・宇奈月温泉観光局は、平成20年に黒部・宇奈月温泉観光協会を設立して以降、黒部市全域における観光事業の発展及び振興、地域の活性化を図ることを目的として、観光客誘致事業や観光客誘致促進のためのPR事業などに取り組んできており、平成23年に一般社団法人となった後も、会員として市内観光事業者をはじめ金融機関、印刷会社、情報・通信事業者、飲食店、製造事業者などが入会しており、多面的な取り組みが期待できる。同時に、第2種旅行事業者として、市内周遊を促す旅行商品の販売や、宿泊施設への送客などにも注力しており、対象域としては市内全域とすることが適切である。

【観光客の実態等】

黒部市の観光入込客数(主要4施設合計)の年次推移は、平成21年以降、減少傾向が続いたが、北陸新幹線開業の平成27年に急増。その後開業効果の縮小に伴い減少しているものの、新幹線開業前に比べ増加を保っている。一方で冬場の入込客数、宿泊客数が他の季節に比べて少ないことが課題となっている。

(別添) 様式 1

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

黒部川の峡谷沿いを走る観光列車「黒部峡谷トロッコ電車」があり、平成 30 年度は 67 万人が乗車しているほか、宇奈月温泉では年間 27.7 万人が宿泊している。平成 27 年度からは黒部峡谷鉄道の終点駅からさらに奥の電力会社施設内に立ち入ることのできるツアーを開始し、年間 9,000 人（平成 30 年度）が参加している。海岸沿いには漁師町の街並みが残る街、生地（いくじ）があり黒部川の伏流水が自噴する湧水群として全国名水百選に選ばれている。生地には海産物の物販や食事ができる施設【魚の駅「生地」】があり、ここを拠点として観光ガイドがまち歩きを実施しており年間 3,026 人（平成 30 年度）を案内している。丘陵地には【くろべ牧場まきばの風】があり、富山湾が一望できる。また、放牧された動物とのふれあえ、牛乳、ソフトクリーム、ヤギのチーズなども販売している（飲食スペースも有り）。

イベントでは、毎年 5 月にはカーター元米大統領が来訪された際に始まった黒部名水マラソンが開催され（令和元年で 36 回目）、県内外から 1 万人超の参加がある。9 月には 3 日間の日程で湯の街ふれあい音楽祭@宇奈月（モーツァルト音楽祭）が開催され約 6000 人が来場する。宇奈月がモーツァルトの故郷ザルツブルクに似ていると言われたことから始まったイベントで、旅館やお寺、橋の上など温泉街全体が演奏会場となり県内外からプロ・アマ問わず多く約 600 人の音楽家たちが集う。2 月第一土曜日には宇奈月温泉雪のカーニバルが開催される。日本一歴史の長い「雪と炎」の祭典（平成 31 年で 73 回目）で、温泉街では一般来場者がタイマツを持って練り歩くほか、街中に作った雪道をタイマツを持ったスキヤーが山から滑ってくるという他ではなかなか見られないイベントである。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

宿泊施設は、平成 28 年度末でホテル 2 施設（客室数 69）、旅館 18 施設（客室数 784）、その他宿泊施設 13 施設（客室数 120）で、計 33 施設（客室数 973）となっている。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

黒部市は東京、大阪、名古屋の三大都市圏からほぼ等距離の場所に位置し、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅や北陸自動車道黒部 IC といった大動脈の玄関口を備えている。また、市内には、北陸新幹線、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道、黒部峡谷鉄道と、4 つの鉄道路線を有している。東京からは北陸新幹線で乗り換えが無く最速 2 時間 20 分、大阪や名古屋からも 4 時間程で来ることが可能。北陸の中心地金沢からは新幹線で 35 分、富山市からは新幹線で 12 分、あいの風とやま鉄道で 30 分、富山地方鉄道で 1 時間 15 分と複数の路線を利用可能。

域内交通では、市内バス 9 路線が定時運行している。黒部宇奈月温泉駅から海沿いの街、生地へは直通の路線バスが整備され、所要時間は 30 分。鉄道駅はあいの風とやま鉄道が 2 駅、富山地方鉄道が 16 駅、北陸新幹線が 1 駅、黒部峡谷鉄道が 10 駅。

【外国人観光客への対応】

黒部宇奈月温泉駅および隣接する黒部市地域観光ギャラリー、市内のホテル・旅館の wi-fi 整備、宇奈月温泉街の飲食店、お土産物販売店、宿泊施設での案内表示の多言語化、市内 2 か所の観光案内所での英語対応を行っている。黒部峡谷鉄道では案内表示、案内含め 4 言語対応を行っている。また、観光案内所での音声翻訳機の導入や温泉街各商店でのキャッシュレス決済を積極的に進めている。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

(別添) 様式 1

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	(一社)黒部・宇奈月温泉観光局公式サイトへのアクセス状況を集計。市内主要観光施設のSNS「いいね」数等を把握
旅行消費額	地域経済の活性化を図る指標として重要であるため	アンケートを自主事業として実施
旅行者満足度	持続可能な観光地を目指すために重要な指標であるため	アンケートを自主事業として実施
延べ宿泊者数	地域経済の活性化を図る指標として重要であるため	宇奈月温泉旅館協同組合、黒部市と共同して調査を実施
入込客数	観光消費額の算出、経済波及効果の分析のため	黒部市と共同して調査を実施

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界水準の山岳観光資源「黒部峡谷」 ・ 観光列車「黒部峡谷鉄道トロッコ電車」 ・ 県内随一の温泉地「宇奈月温泉」 ・ 黒部港水揚げの海産物資源 ・ 世界シェア 1 位のファスナーメーカー「YKK」を中心とした物づくり・産業観光 ・ 世界第一級の降水・降雪量の地域で培われてきた治水・砂防技術遺産 ・ 2023 年宇奈月温泉開湯 100 年 ・ 2024 年黒部ルート一般開放 	弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> ・ 滞在時間が短く、消費金額が少ない ・ 旅行者への食事機会提供環境の不足 ・ 外国人旅行者にも対応した高付加価値の宿泊施設の不足 ・ コンベンション開催に対応した宿泊施設の不足 ・ 冬季の宿泊者が少なく、観光施設の稼働率の平準化ができていない ・ 地域全体のホスピタリティに課題 ・ 一部観光施設の老朽化
外部環境	機会 (Opportunity) <ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」開業 ・ 宇奈月温泉街の旅館・ホテルへの設備投資機会の増加 ・ 外国人観光客の増加基調 ・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催 ・ 2023 年北陸新幹線が敦賀まで延伸 	脅威 (Threat) <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光関連事業者の高齢化、後継者不足 ・ 情報発信、閲覧の際に活用するメディアの多様化に対応しきれず、効果のある宣伝が十分に行えなくなる恐れ ・ 国内旅行者の減少と、外国人観光客の増加に対応しきれない恐れ ・ 外国人旅行者が増加するなかでの為替の変動や政治的リスク

(2) ターゲット

(別添) 様式 1

○第1ターゲット層 首都圏、関西圏、中京圏に住む、40～60代のミドル、熟年層の国内旅行者
○選定の理由 ・ターゲット層の来訪が多く、旅行者全体の中での比率が高いため。 ○取組方針 ・満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。
○第2ターゲット層 台湾、香港の団体客、家族旅行者
○選定の理由 ・ターゲット層の来訪が、外国人旅行者の中で半数を占め、今後も市場拡大が見込めるため。また、同じく県内観光地「立山黒部アルペンルート」も台湾・香港の方々から人気で、宇奈月温泉宿泊とセットで周遊される方が多い。 ○取組方針 ・来訪時の主要目的である黒部峡谷トロッコ電車に加えて、滞在時間の延長につながるよう言語対応やwi-fi環境など受け入れ環境面の整備を進める。また、2024年黒部ルート一般開放を見据えて立山黒部アルペンルートとの連携を強化する。
○第3ターゲット層 都市部にすむ子育て世代の家族客
○選定の理由 ・現状来訪者全体に占める比率は高いとはいえないものの、ラフティングやキャニオニング、まち歩きガイドツアーなどターゲットの満足度が高い着地型観光資源があり、観光客向けでない、ありのままの文化や自然、生活様式を楽しむ滞在型ツアーのニーズの高まりが期待できるため。 ○取組方針 ・従来の消費型の観光ではなく、日常の中に感じられる非日常性を楽しんでもらうことで、当地のリピーターやファンづくりにつなげていく。加えて当地ならではの着地型旅行商品を充実させるとともに、ターゲット層への情報提供を充実させる。

(3) コンセプト

①コンセプト 大自然とその四季の魅力を活かし、世界に誇れる観光交流のまち黒部
②コンセプトの考え方 山川海がそろった豊かな地域資源とその四季の魅力を最大限に活かし、住民が誇りと自信をもって来訪者を迎えることができるよう、広域的滞在型観光の推進や、国際観光交流を盛んに行い、定住・滞在・交流・関係人口の増加を図る。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
----	----

(別添) 様式 1

戦略の多様な関係者との共有	DMOを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニケーションの場を設けるとともに、必要に応じて実務者会議を随時開催し取り組みを共有する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	常設では市内2か所、魚の駅「生地」では4～11月の祝休日のみ開設の観光案内所の計3か所で、運営管理とお客様からの要望、苦情、問合せの記録と対応を行っている。外国人向けでは宇奈月温泉街で記入式のアンケート調査を通年で実施しており、満足度評価結果を調査先である宿泊施設や観光施設と共有している。
一元的な情報発信・プロモーション	季節やジャンルごとの観光情報をホームページに一元的に表示し、各種キャンペーンやSNSを利用した効果的な情報の発信とプロモーションを実施している。

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI ※は参考値

指標項目	単位	H28年 (度)	H29年 (度)	H30年 (度)	R1年 (度)	R2年 (度)	R3年 (度)	R4年 (度)
●旅行消費額	円	未調査	30,190※	30,047	30,647	31,259	31,885	32,523
●延べ宿泊者数	人	317,968	310,607	277,170	334,000	339,300	344,600	350,000
●来訪者満足度	5 段階	未調査	1.62※	1.96	1.92	1.88	1.84	1.80
●リピーター率	%	未調査	未調査	48.3	49.2	50.1	51.1	52.2

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

宿泊者数は以前から集計していたが、その他の項目は集計していなかった(業界としての統一的な取り組みはなかった)。そこでDMO仮登録を機に宇奈月温泉旅館協同組合や黒部峡谷鉄道(株)、黒部市、富山県などの協力を得て調査を開始した。R4年度に宿泊者数35万人とする目標を黒部市と共有している。

【設定にあたっての考え方】

※いずれも毎年前年比2%改善を目標とする

●旅行消費額

黒部市内の複数の観光施設で、年4回、宿泊者と日帰り来訪者に交通費、宿泊費、土産購入額、飲食費、入場料等を聞き取り算出

●延べ宿泊者数

宇奈月温泉旅館協同組合加盟旅館10館の宿泊者数を算出

●来訪者満足度

アンケートを集計、1～5の5段階評価(最高値が1)

●リピーター率

アンケートを集計

(2) その他の目標

(別添) 様式 1

指標項目	単位	H27年 (度)	H28年 (度)	H29年 (度)	H30年 (度)	R1年 (度)	R4年 (度)
●冬季(12~3月)の宇奈月温泉の宿泊者数	人	81,866	69,397	68,947	78,869	80,446	82,055
●着地型観光商品の利用者数	人	22,618	19,146	16,965	16,788	17,650	19,000

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

<p>【検討の経緯】 必須項目の他に、特に黒部・宇奈月温泉特有の項目について目標値を設定する</p> <p>【設定にあたっての考え方】</p> <p>●冬季(12~3月)の宇奈月温泉の宿泊者数 宇奈月温泉は黒部峡谷トロッコ電車が冬季休業に入ると宿泊者数が激減する。黒部市としても富山県としても冬季の賑わいづくりを重点施策としていることから目標値を設定した</p> <p>●着地型観光商品の利用者数 (一社)黒部・宇奈月温泉観光局は第2種旅行業を取得しており、着地型観光商品の造成や実施による収益が組織運営に大きな影響を及ぼす。また、北陸新幹線開業と同時にスタートした「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」は黒部峡谷にとってのキラーコンテンツである。このほか、まち歩きツアー参加者、黒部川のウォーターアクティビティ参加者を加え、本項目を設定した。</p>

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入(千円)	内訳
H30年度	116,148	【富山県からの補助金】1,200 【黒部市からの補助金】48,844 【事業協賛金】1,350 【地方公共団体からの指定管理収入】19,911 【会費収入】2,992 【収益事業収入】32,504 【その他】25 【繰越金】9,322
R1年度 (見込み)	195,626	【富山県からの補助金】1,200 【黒部市からの補助金】89,886 【事業協賛金】1,345 【地方公共団体からの指定管理収入】43,632 【会費収入】3,035 【収益事業収入】49,518 【その他】10 【繰越金】7,000
R2年度	195,626	【富山県からの補助金】1,200

(別添) 様式 1

(見込み)		【黒部市からの補助金】 89,886 【事業協賛金】 1,345 【地方公共団体からの指定管理収入】 43,632 【会費収入】 3,035 【収益事業収入】 49,518 【その他】 10 【繰越金】 7,000
R3 年度 (見込み)	195,626	【富山県からの補助金】 1,200 【黒部市からの補助金】 89,886 【事業協賛金】 1,345 【地方公共団体からの指定管理収入】 43,632 【会費収入】 3,035 【収益事業収入】 49,518 【その他】 10 【繰越金】 7,000
R4 年度 (見込み)	195,626	【富山県からの補助金】 1,200 【黒部市からの補助金】 89,886 【事業協賛金】 1,345 【地方公共団体からの指定管理収入】 43,632 【会費収入】 3,035 【収益事業収入】 49,518 【その他】 10 【繰越金】 7,000

(2) 支出

年度	総支出 (千円)	内訳
H30 年度	104,673	【事務局経費】 28,260 【事業費】 59,137 【施設管理費】 15,698 【負担金】 1,230 【会議費】 140 【その他】 208
R1 年度 (見込み)	195,626	【事務局経費】 33,509 【事業費】 137,701 【施設管理費】 18,337 【負担金】 1,196 【会議費】 450 【その他】 4,433
R2 年度 (見込み)	195,626	【事務局経費】 33,509 【事業費】 137,701 【施設管理費】 18,337 【負担金】 1,196 【会議費】 450 【その他】 4,433
R3 年度 (見込み)	195,626	【事務局経費】 33,509 【事業費】 137,701 【施設管理費】 18,337

(別添) 様式 1

		【負担金】 1,196 【会議費】 450 【その他】 4,433
R4 年度 (見込み)	195,626	【事務局経費】 33,509 【事業費】 137,701 【施設管理費】 18,337 【負担金】 1,196 【会議費】 450 【その他】 4,433

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- 日本版DMOとしての取り組みが地域経済全体の活性化につながることを、観光産業以外の事業者へも広く周知し、理解を図り、会員増・会費増を目指す
- 着地型旅行商品の造成・販売を行い、手数料や商品販売による収益を確保
- 宿泊施設手配に係わる手数料収入の確保
- 市内外施設利用による斡旋経費の確保
- 市等からの補助金・受託事業の確保による基盤の確立

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

黒部市は、(一社)黒部・宇奈月温泉観光局を当該市町村における地域DMOとして登録したので(一社)黒部・宇奈月温泉観光局とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	坂井 英次
担当部署名(役職)	(一社)黒部・宇奈月温泉観光局 (事務局長)
所在地	富山県黒部市若栗 3212-1
電話番号(直通)	0765-57-2850
FAX 番号	0765-57-2852
E-mail	e-sakai@kurobe-unazuki.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	黒部市
担当者氏名	西田国司
担当部署名(役職)	産業経済部商工観光課(課長補佐)
所在地	富山県黒部市三日市 1301
電話番号(直通)	0765-54-2611
FAX 番号	0765-54-2607

(別添) 様式 1

E-mail	Kuniji-nishida@city.kurobe.lg.jp
--------	----------------------------------

【区域】黒部市

【設立時期】平成23年4月5日

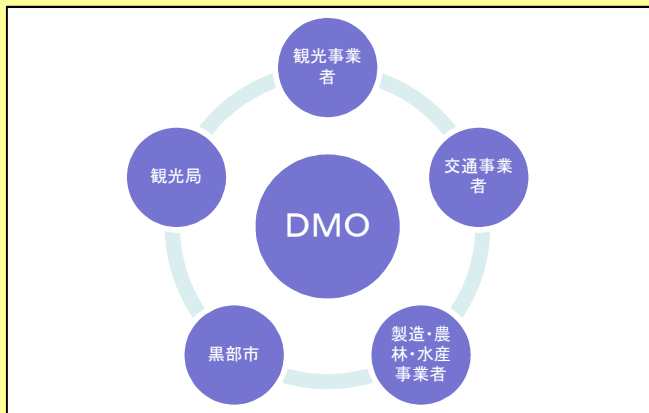
【代表者】代表理事 川端康夫

【マーケティング責任者】専務理事 坂井英次

【職員数】14人【内訳:常勤9人(正職員7人、非正規職員2人、出向等0人)、非常勤5人(非正規職員5人)】

【連携する主な事業者】 黒部市

(表:実施体制)



(表:KPI(実績・目標)※は参考値)

	H28年(度)	H29年(度)	H30年(度)	R1年(度)	R4年(度)
旅行消費額	未調査	30,190 ※	30,047	30,647	32,523
延べ宿泊者数	317,968	310,607	277,170	334,000	350,000
来訪者満足度	未調査	1.62 ※	1.96	1.92	1.84
冬の宿泊者数	69,397	68,947	78,869	80,446	99,587

観光資源の活用に関する取組

「観光資源の魅力発掘と磨き上げ」「冬の魅力づくりによる観光の通年化」「体験・滞在型観光の推進」「広域観光の推進」を柱として、黒部峡谷のキラコンテンツ化、歴史文化や市民の生活を観光に結び付ける商品の開発、地元ガイド同行で行うスノーシューツアー等の商品化、黒部川や海上を活用した体験メニューの充実、自然科学・美術等の施設を活用した滞在型観光および朝や夜の楽しみ方の提案などを行う。

外国人旅行者に関する取組

「受け入れ環境の整備」「誘客促進」「国際感覚の醸成」を柱に、多言語による情報発信の強化、wi-fi環境の整備、接遇の向上、受け入れ推進組織の設立、メディアの招へい、海外での宣伝活動、海外の学生インターシップ受け入れ、交流機会の拡大などを推進していく。

戦略的PRに関する取組

「黒部市のブランド化」「情報発信」を柱に、黒部ブランドの再構築、世界ジオパーク認定に向けた取り組みの推進、黒部の水のPR、宇奈月の温泉の価値検証とブランド化に取り組む。情報発信では、首都圏向けの誘客活動や広告展開を強化するとともに、ターゲットを設定した上でモデルコースを提案するなど、実用的な情報発信を行う。またフィルムコミッションの設立、ウェブ上でのホームページやSNSによる情報発信も推進する。

受入体制に関する取組

「おもてなしの機運醸成」「旅行者の利便性の向上」「戦略的に観光を推進するための組織強化」を柱に、観光ガイド等のスキル向上、市民の観光客に対するおもてなし意識の醸成、二次交通の充実、案内所の機能強化や案内看板の整備、着地型旅行商品の造成、地域観光リーダーの育成、事業者間の連携促進、広域観光推進体制の強化、調査データの収集分析などに取り組む。

